

# オール都民の大きな財産

## 国・都が保全基金の造成を



——首都・東京にとっての神宮内外苑の価値は。

神宮の森は当時の林学者や造園家らの英知が結集され作られた「人工的な森」だ。日本造園の祖とも言える上原敬二が全国の代表的な古社を現地踏査し、現代風に言えば「生命の循環」によって、森林の永続性が可能になるよう計画された。日本の神社はそもそも森（自然）が「ご神体」。そういう意味ではご本殿と内苑は「鎮守の森」だ。

——外苑については。

### 福井県立大学学長 進士五十八氏

しんじ・いそや＝1944年生まれ、東京農大造園学科卒、農学博士、造園・環境計画が専門。東京農大元学長。明治神宮総代。著書に『地球社会の環境ビジョン—これからの環境学』（日本学術協力財団）、『日比谷公園—100年の矜持に学ぶ』（鹿島出版会）ほか多数。

聖徳記念絵画館を中心に西洋式に設計された。国民スポーツの場と憩いの緑地でもある。内苑は内務省が神宮造営局を設けて国が直接完成させたが、外苑は国民からの寄付金によって完成した。共に日本国中からの献木と青年団などの勤労奉仕に支えられた。

英国の公園は「コモン・スペース（皆の空間）」から始まったが、日本の鎮守の森も同じように土地や境内を氏子皆で樹木を植えて維持管理してきた。いわば日本型公園の原点が鎮守で、皆で支える思想でできている。

私は鎮座100年記念明治神宮境内の森総合調査団の座長を務めたが、代々木の荒地に自然を再生し、現代東京最大の生物多様性の大緑地として、極めて重要な森だと考える。

世界の元首を始め、各国の旅行者が必ずと言っていいほど神宮の森を訪れるのは、日本を感じたいからだと思う。

——どうして神宮外苑に手を付けるのでしょうか。

内外苑合わせて東京最大の緑だが、神宮に対する国の補助は無理だから、保存・維持・運営や人件費、さらには外苑施設の老朽化に伴う更新のための費用の捻出も神

宮の責任。神宮は初詣の参拝者が日本一でお金があると誤解されているが、それでは財政の1割にもならないようで、明治神宮財政は外苑の収入が頼りという構造だ。

私見だが、小池知事はかつて環境相も務められ、人工巨大都市の都民にとってオーブンスペースが

いかに重要か十分理解される方。元来、東京市の公園にしようと思致地区にもした外苑は、国・都で開発権を買い上げ、将来にわたって国民の文化遺産として保存されるべきだ。国や都が「神宮の森保全基金」を造成して、神宮が森を守るために運用することができればよいのではないか。

外苑の環境維持のため巨大建築物を造れないよう風致地区に指定したのに、国立競技場に合わせて高さを簡単に緩和してしまった。かつての東京市なら都市計画家の

プライドにかけてそうした安易な対応は避けたいと思う。都庁の皆さんにも頑張ってもらいたい。

——都は新たに樹木を植えると説明しています。

樹齢100年のすこさを知らない人は「新しい樹木を1千本植えるから」という口走る。新国立競技場にも植物はあるが、プランターの中の植木で、環境改善レベルにはほど遠い。単なる「お化粧」だ。

明治神宮の森にはオオタカが営巣していて、生命が再生産されている証拠。生物多様性の調査で気づいたが、池などに外来種がずいぶん少ない。日本人の根っこにアニミズムというか、自然への崇敬心があるからだろう。経済第一で考えると、カネやモノだけだが、スピリチュアルな森と環境が不可欠だと思う。オール都民の大きな財産だと気付いてもらいたい。

### 神宮外苑の再開発 有識者に聞く



＝2021年？＝なる？